

救急車要請（119番通報）のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える

① 救急であることを伝える



② 救急車に来てほしい住所を伝える



③ 「いつ、だれが、どうして、現在どのような状態なのか」を伝える



④ 通報している人の氏名と連絡先を伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

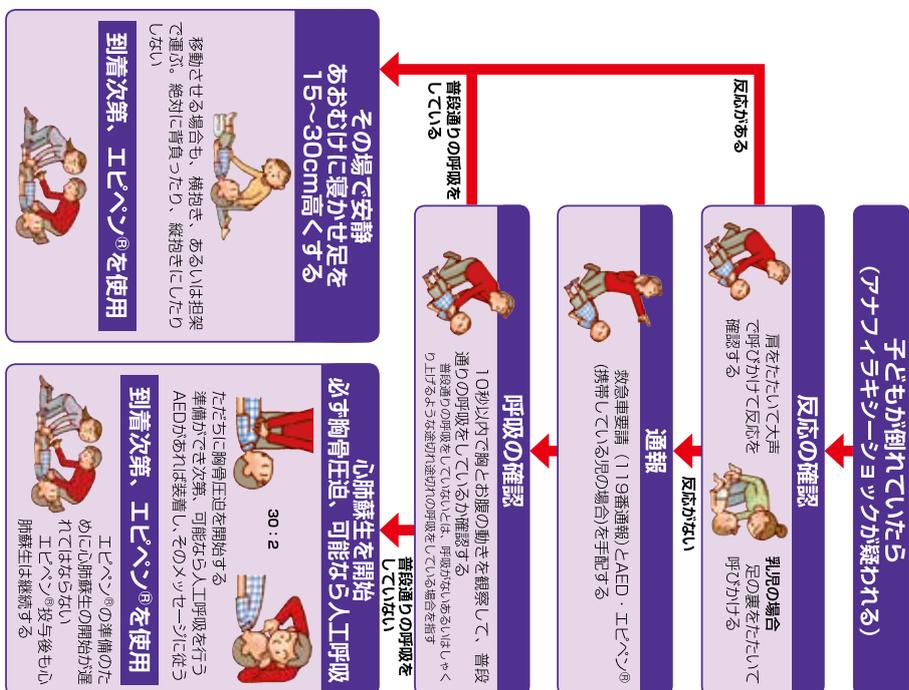
※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることがある
 ●通報時に伝えた連絡先の電話番号は、常につながるようにしておく
 ●その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

食物アレルギー緊急時対応マニュアル

食物アレルギーの症状が出てしまった時の緊急時の対応をまとめたマニュアルです。

必要事項を記入し、キリトリ線で切り取って、三つ折りにすると持ち歩くことができるサイズです。保護者や子どもが携帯しておくだけでなく、保育所や学校に渡しておくのもよいでしょう。

子どもが倒れていたら～アナフィラキシーショックが疑われるときの対応～



×キリトリ線×

食物アレルギー緊急時対応マニュアル

写真

なまえ： _____

アレルギー： _____

気管支ぜん息： あり / なし

エピペン®： あり (保管場所 _____) / なし

クスリ： あり (保管場所 _____) / なし

抗ヒスタミン薬： _____

気管支拡張薬： _____

ステロイド薬： _____

救急車要請： **119番**

保護者： 名前 _____ 電話 _____

連絡先： 名前 _____ 電話 _____

主治医： 名前 _____ 電話 _____

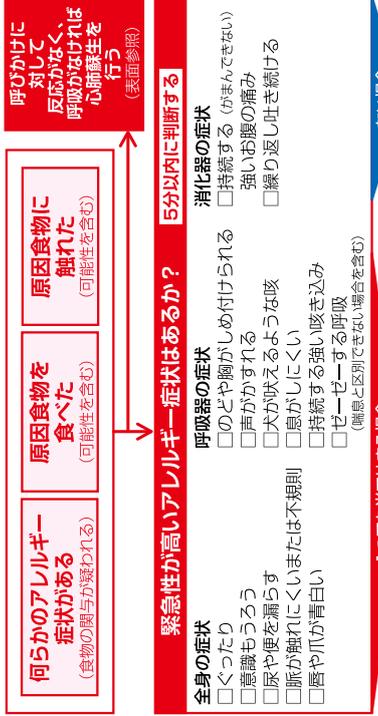
施設名 _____

MEMO

この食物アレルギー緊急時対応マニュアルは『ぜん息予防のためのよくわかる食物アレルギー対応ガイドブック 2021 改訂版』の付録として制作しました。

発行元： 独立行政法人 環境再生保全機構
 令和7年5月 第1版第12刷発行





緊急性が高いアレルギー症状への対応

1つでも当てはまる場合

① ただちにエビペン®を使用する
 ② 救急車を要請する(119番通報)
 ③ その場で安静にする(下記の安静を保つ体位参照)
 ④ その場で救急隊を待つ
 ⑤ 可能なら内服薬を飲ませる

エビペン®がそばにある場合(呼びかけに対する反応がある)
 エビペン®を使用し10~15分後に症状の改善がみられない場合、次のエビペン®を使用する

反応がなく呼吸がない
 呼吸がなく呼吸がない
 心臓蘇生を行う

5分以内に判断する

消化器の症状
 嘔吐
 下痢
 腹痛
 嘔吐・下痢が繰り返す
 嘔吐・下痢がひどい

呼吸器の症状
 声がかすめる
 声がかすめるような咳
 息がしにくい
 連続する強い咳き込み
 ゼーゼーする呼吸(喘鳴と区別できない場合を含む)

安静にできる場所へ移動する

内服薬を飲ませる
 ()
 ()

少なくとも5分ごとに症状を再評価する
 症状が悪化する場合は、**緊急性の高い症状の出現**に従い判断し対応する
緊急性の高い症状の出現には特に注意する

安静を保つ体位

吐き気・おう吐がある場合
 吐き気・おう吐がある場合
 呼吸が苦しく仰向けに
 ならない場合

くったり・意識もうろうの場合
 血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15~30cm高くする

呼吸を楽にするため上半身を起し後ろに寄りかからせる

◆それぞれの動作を声を出し、確認しながら行う
 ◆注射をするときは、必ず子どもにも声をかける

1 ケースから取り出す

ケースのカバーキャップを開けエビペン®を取り出す

2 しっかりと握る

オレンジ色のニードルカバーを手に向け、グーで握る
 *グーで握る！

3 安全キャップをははずす

青い安全キャップをははずす

4 太ももに注射する

太ももの外側にエビペン®を先端(オレンジ色の部分)を軽くあて、「カチッ」と音がするまで強く押しあてそのまま5つ数える
 注射した後すぐに抜かない!
 押しつけたまま5つ数える!

5 確認する

エビペン®を太ももから離しオレンジ色のニードルカバーが伸びているか確認する
 伸びていない場合は【④に戻る】

6 マッサージする

打った部位を10秒間マッサージする

介助者がいる場合

介助者は、子どもの太ももの付け根と膝をしっかり押さえる、動かさないように固定する

注射する部位

●衣類の上から、打つことができ
 ●太ももの外側の筋肉に注射する(真ん中(A)よりやや外側で、かつ太ももの付け根と膝の間の部分)
 仰向けの場合
 座位の場合

◆迷ったらエビペン®を使用する
 ◆症状は急激に変化する可能性がある
 ◆少なくとも5分ごとに症状を注意深く観察する
 ◆□の症状が1つでもあてはまる場合、エビペン®を使用する
 (内服薬を飲んだ後にエビペン®を使用しても問題ない)

全身の症状
 くったり
 意識もうろう
 尿や便を漏らす
 脈が触れにくいまたは不規則
 唇や爪が青白い

呼吸器の症状
 のどや胸が締め付けられる
 声がかすめる
 声がかすめるような咳
 息がしにくい
 連続する強い咳き込み
 ゼーゼーする呼吸

消化器の症状
 連続する強い(かまんでできない)お腹の痛み
 1~2回の嘔吐
 1~2回の下痢

目・口・鼻・顔の症状
 顔全体の腫れ
 まぶたの腫れ
 目のかゆみ、充血
 口の中の違和感、唇の腫れ
 くしゃみ、鼻水、鼻つまり

皮膚の症状
 強いかゆみ
 全身に広がるじんま疹
 全身が真っ赤
 唇の腫れ
 顔の腫れ
 顔のじんま疹
 部分的な赤み

1つでもあてはまる場合
 1つでもあてはまる場合

① 内服薬を飲ませる
 ()
 ()

② 少なくとも1時間は、5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診
 ()
 ()

③ 医療機関に到着するまで少なくとも5分ごとに症状の変化を観察□の症状が1つでもあてはまる場合、エビペン®を使用

速やかに医療機関を受診

① 内服薬を飲ませエビペン®を準備
 ()
 ()

② 速やかに医療機関を受診(救急車の要請も考慮)

③ 医療機関に到着するまで少なくとも5分ごとに症状の変化を観察□の症状が1つでもあてはまる場合、エビペン®を使用

速やかに医療機関を受診

① ただちにエビペン®を使用
 ② 救急車を要請(119番)
 ③ その場で安静を保つ
 ④ その場で救急隊を待つ
 ⑤ 可能なら内服薬を飲ませる
 ()
 ()

ただちに救急車で医療機関へ搬送

安静にし注意深く経過観察